

令和元年度第1回委託相談支援専門員意見交換会 議事録

日 時：令和元年8月1日（木）10:00～11:30

場 所：大和高田市総合福祉会館 会議室1

参加者：青垣園（堀氏・矢部氏）なつつ（龍満氏・島山氏）葛城市社会福祉協議会（高橋氏・池氏）

まんだらトポス（福井氏・岸氏）大和高田市社会福祉協議会（西川氏）

シェイク（吉岡氏・佐藤氏・ひきた氏）もちつもたれつ（大竹氏）ふあら（秋本氏）

中和圏域マネージャー（木村）

議 題：今後の3市1町の相談支援について

相談支援の現状

○相談支援事業所の運営

運営面を考える必要があるから計画の数をこなす必要がある。

一人のもっている計画相談の件数が100件近くになっている事業所が多い。

○事業所の相談支援の体制

兼務状態であるので、相談に集中できない。

後継者を育てたいがなかなか人が育たない。

○事業所の数・質

ヘルパーの事業所が少ない。

事業所探しが一番忙しい。

一人暮らしをさせたいが、サービスがない。

他府県からの相談の依頼もある。

サービスを使いたいがない。

精神の相談の受け皿がすくない。

保育所等訪問を行っているが、保育所等の質も悪い。

地域の事業所の現状が悪く、良いと思われる事業所がすくない。

重度訪問介護で利用できる事業所が少ない

夜間、早朝に入ってくれる事業所が少ない

吸引や胃ろうなど、医療的ケアができるヘルパー事業所が殆どない

○計画やモニタリングの問題

モニタリングの期間が短くなって対応が難しくなった。

計画相談に追われている一事業所100件以上はもっている。その結果丁寧な相談ができていない。

困難事例がでるとそれに手を取られて計画が追い付かない。

モニタリングも行けていないことが多い。

困難事例があるとそれに手を取られ、計画やモニタリングがおろそかになる。

○委託相談としての在り方

委託相談と計画相談との役割がごっちゃになっている。

困難事例はあるが、

○その他

児童の件数が増えてきている。特に療育手帳がなく、発達障害の診断書の人が多い。

児童の相談をしてるが学校との連携が重要である。

行政が家族にリストだけを渡して、連絡をしてこない行政がある。

本人が嫌と言っているときの意思決定支援をどう考える。

○ひきこもり支援について

引きこもりの人が多く、対応に困っている。

児童時期から成年になって引きこもっている人が多くいる。

今後も引きこもっている人の数が増えるのでは。

○加 算

特定事業所加算を取ろうとしているが、他の事業所はどうしているのか

体制加算の紹介医療的ケア児コーディネーター研修、強度行動障害加算、精神障害者支援加算

○困難事例の対応

連携が必要である。ケースにもよるが、様々な人とのつながりながら本人の支援を考える必要がある。成年になれば、専門分野別（知的・精神・身体）と別れて対応しているが、児童は分野では分かれていない。

次回 令和元年 10 月 23 日（水） 10 時～ 大和高田市総合福祉会館 会議室 1